

「確かな復興」と「元気を町づくり」

小野町長

大和田 昭

町民の皆さま、明けましておめでとうございます。

皆さまには夢あふれる輝かしい平成27年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また日頃から町政全般にわたり温かいご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げますとともに、幸多き一年となりますよう心からご祈念申し上げます。

本年は、小野町が誕生し60年目の節目の年を迎えることとなります。心新たに、本町のさらなる発展のため、全力を傾注し町政に取り組んでまいりる所存でありますので、皆さまからの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、広島県で発生した局地的豪雨による大規模な土砂災害や御嶽山の噴火、四国徳島県の大雪などにより多くの方が

犠牲とられました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするものであります。

わが町の現状に目を向けますと、除染をはじめとする復興への取り組みを鋭意進めておりますが、風評被害をはじめとする影響が根強く残り、閉塞感が完全に払拭できない状況であります。

このような状況の中、幼児・小学生をはじめ、多くの団体の参加のもと「おのまち元気発信パレード」を実施し、沿道からの声援を肌を受け、少しづつではありますが、町に元気と明るさと活気を取り戻しつつあることを感じたところであります。

また商工会青年部が中心となつて取り組んでいるご当地グルメ「おのまち小町アイスパーカー」やミネラル栽培された「にんにく」を加工し、9月からの「黒にんにく」の販売などの地域資源を活用した産

業振興、地域の防災力向上を目的とした中学生による「少年消防クラブ」や「こまち女性消防隊」の結成など、町民の

皆さまが一丸となつてふるさとを守り「住みたい町」「住んで良かった町」を実感できるよう取り組んでいただいております。

一方スポーツ面では、昨年から市町村対抗ソフトボール大会が相馬市を会場に開催され、記念すべき第1回大会で、ベスト16まで勝ち進めたことや、市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会では、順位を上げ大変健闘していただいたこと、さらには小野中学校バレーボール部が見事全国大会出場を果たすなど、それぞれの大会において素晴らしい頑張りで、小野町の名を高からしめていただきました。選手

の皆さまをはじめ、関係された方々に対しまして厚く敬意と感謝を申し上げます次第であ

ります。

さらに昨年から6人の観光大使を任命させていただいており、小野町の良さを広く町内外にPRしていただきながら、本町のより一層の魅力向上と「笑顔とがんばりの町小野町」のキャッチフレーズに負けないよう元気な町づくりにまい進してまいります。

加えて町では、定住人口の増加、活気ある町にするため、企業誘致を積極的に行っているところであり、昨年11月から自動車部品製造会社が鶴庭工業用地において操業を開始し、さらに12月には同じ鶴庭工業用地内に建設機械用部品製造会社が立地を決定し、立地協定の締結を行ったところであります。

1社でも多くの企業を誘致できるようさらに努力を重ね、若者が定住できる環境づくりに努めてまいります。

化する中で、行政の

対応がまだまだ追いつかない状況ではありますが、引き続き「確かな復興」「元気な町づくり」のための生活環境やあぶくま高原道路の延伸に合わせた地域基盤の整備、子供たちがのびのびと学べる教育施設の整備、本年3月1日開院する公立小野町地方総合病院と連携した保健、医療、福祉の充実、地域産業の振興、少子化対策など、新年を迎え新たな決意をもって、農

商工の調和のとれた町づくりのため、積極的に歩みを進めてまいりたいと考えておりますので、皆さまのさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、すべての町民の皆さまのご健勝とご多幸をあらためてご祈念申し上げます。さて、年頭のごあいさつとさせていただきます。

